

編集・発行人／栃木県障がい者スポーツ指導者協議会  
事務局／会長兼事務局長 郡司 原之

栃木県障がい者スポーツ指導者協議会だより

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

UD FONT

## 第22回全国障害者スポーツ大会 「いちご一会とちぎ大会」 特集号



「いちご一会とちぎ大会」 栃木県選手団解団式

### 会長挨拶

栃木県障がい者スポーツ指導者協議会 会長 郡司 原之  
〔「いちご一会とちぎ大会」大会副会長・栃木県選手団ポッチャ競技監督〕

日頃より、皆様方にはパラスポーツ振興にお力をいただき、ありがとうございます。本年度は、何といたっても全スポいちご一会とちぎ大会が全日晴天の中、4年ぶりに無事開催できたことを大変嬉しく思います。そして成功裏に終えたこと。これも参加された多くの会員の皆様、特に大会を各方面各分野でさまざまな形で支えていただいた会員の皆様のお陰だと思えます。心からお礼と感謝を申し上げます。私の県外の知り合いからも、おもてなしと感激感動をいただいた素晴らしい大会であったこと、また栃木に来たいというお言葉をいただいております。



地元開催の全スポという大きな大会は終わりましたが、今後もパラスポーツの更なる普及にお力をお貸しください。また、これから出会うであろう我々指導員を待っている方々のために、自己研鑽に努めていきましょう。そして、一期一会を大切にして我々指導員も共にインクルーシブスポーツを楽しみましょう。

最後に、コロナ禍でまだ制約を受ける中ではありますが、関係各位、会員の皆様には今後とも当協議会の運営にご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

# いちご一会とちぎ大会

第22回 全国障害者スポーツ大会

夢を感動へ。感動を未来へ。2022



第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」は、『夢を感動へ。感動を未来へ。』のスローガンのもと、令和4（2022）年10月29日（土）～31日（月）に開催されましたが、天候にも恵まれ、多くの成果と深い感動を残し、盛会裏のうちに幕を閉じました。

大会には、個人7競技・団体7競技の合計14競技に選手296名、役員175名、総勢471名の過去最大規模の本県選手団が参加しましたが、個人競技で過去最高の141個のメダルを獲得し、団体競技においても、サッカーが準優勝、フットソフトボールとバレーボール知的障害者の部女子が3位となるなど、素晴らしい成績を収めることができました。

標記大会は、多くの皆様にご尽力いただき、まさに県民の総力を結集して取り組んだ大会でしたが、大会に関わったたくさんの方々から、大会を振り返ってお言葉をいただきました。

## いちご一会とちぎ大会に感謝

（特非）栃木県障害者スポーツ協会 事務局長補佐  
（栃木県障がい者スポーツ指導者協議会 副会長）

栃木県選手団 総監督 小金沢 茂

台風や新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりとなった『全国障害者スポーツ大会』は、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、『第22回全国障害者スポーツ大会いちご一会とちぎ大会』として開催されました。公式練習日も含め4日間天候にも恵まれ、一大イベントを無事に終えることができ、今は安堵の気持ちで一杯です。

大会に当たり、指導者協議会の皆様には、長年にわたり、本県選手団の発掘・育成及び競技力向上のため、加えて、競技を主管する競技団体へのサポートなど多大なる御尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、本県選手団は、選手296名、役員175名の総勢471名からなる過去最大規模となりました。私は、地元開催で、県選手団総監督という大役を任せていただきました。大会名称には「いちご一会」という言葉が使われましたが、「一期一会」という言葉は、一生に一度の機会と考えて茶会に臨み、相手に接せよとの茶道の心得で、出会いを大切にすべきという教えです。普段、私が大切にしている言葉です。この大会は、一生に一度の地元開催の大会で、私の集大成の仕事として、これまでお世話になった方へ恩返しをするという思いで臨みました。

今大会は、4年ぶりの開催、地元での初開催であり、コロナ禍に翻弄され続け、準備には困難を伴う場面も多々ありましたが、「一期一会」という言葉を大切にしながら、全力を尽くすことができたと思います。閉会式を終え、カンセキスタジアムとちぎで行われた県選手団解団式で、選手たちの清々しい笑顔を見たときに、多くの方々にスポーツの素晴らしさ、感動や勇気を与えることができたと確信しました。これからは、この感動を未来へつなげることに全力を尽くしたいと思います。

## ～いちご一会とちぎ大会に参加して～

山梨県選手団 団長／

山梨県障がい者スポーツ指導者協議会

会 長 奈良 妙子

今回、引率した3名の方にもコメントを頂きました。

(副団長) コロナ禍で開催された初めての大会であり、関係者の皆様の苦労は大変だったと心から敬意を表し、感謝します。待ち時間の発生や移動の困難さなどもありましたが、素晴らしい施設で競技ができ選手にとっても大きな喜びでした。また、担当の県の方や学生ボランティアの方には、細やかな配慮やサポートを頂き、帰県の際にも見送りにきていただくなど、心が温まり、安心して競技できる大会となり、心から感謝しております。

(卓球役員) 手話通訳士・事務局として卓球に引率しました。大会の食事面では暖かい料理で満たされました。宿舎からバス発着場までの移動が長く車椅子使用者にとって大変だと思いました。卓球会場としては、コロナ禍では少し狭いような印象がしました。閉会式場では時間の余裕がなく土産を買えない状況でした。開閉会式のカンセキスタジアムが立派なものには驚き素晴らしかったです。

(FD 役員) コロナ対策など通常とは違い大変でしたが、4年ぶりに開催していただき、役員・選手にとって、とても嬉しい限りでした。

(団長) 本県選手団は7競技17名の選手と16名の役員が参加しました。各競技会場を副団長と応援に巡回しましたが、きめ細やかなコロナ対策と裏腹に移動距離・時間に費やされ障害者にとっては大変なエネルギーの消費が大きかったように思います。4年ぶりの大会で選手の緊張をほぐしていただけたのは、県担当者及びボランティアの方々の迅速な判断と計らいです。また、選手の心の安定と勇気の原因力に繋がり、自身の記録にも繋がりました。そして、素晴らしい競技場、水泳場には驚かされました。ここで競技できたことは良い思い出になりました。関係者の皆様、栃木県障がい者スポーツ指導者協議会の皆様、素晴らしい大会をありがとうございました。そしてお疲れさまでした。



帰県の時、ホテル前での役員、ボランティアさんの見送りありがとうございました。



集合写真です。

## ～いちご一会とちぎ大会に参加して～

川崎市障がい者スポーツ指導者協議会

会長 石田 さち子

川崎市は選手30名、役員30名の全6競技（陸上競技・水泳・アーチェリー・卓球・フライングディスク・ボッチャ）に参加しました。10月27日に川崎市内のホテルで出発式を行い、川崎市長からの熱い激励を受けて昼過ぎに栃木に向けて3台のバスで出発しました。私自身はボッチャのコーチ兼副総務として2名の選手と1名の介助者とともに那須塩原市の「那須マロニエホテル」に宿泊となりました。

大会1日目の総合開会式の最中、ボッチャは9：40と10：40の2試合であつという間に全競技が終了しました。初めて全国大会の舞台で試合をする選手たちにとってはとても緊張する試合で練習の成果も発揮できずに終わってしまったこと、1エンドしかプレーできないことの悔しさを語っていました。

次の日の表彰式までは束の間の観光を楽しみ栃木の魅力を満喫しました。競技を終えた安堵感と共に口にした牧場のソフトクリームは格別でした。

閉会式では「カンセキスタジアムとちぎ」において『いちご一会とちぎ大会』の盛大な雰囲気を感じ、選手にとっても思い出深いものになりました。

大会期間中は天候にも恵まれ、想定よりも暖かく穏やかに過ごすことができました。加えて、ホテルの温泉に疲れを癒し過ごせたことは有難い贈りものだったと感じています。

重度障がい者や女性の参加等を目的として初開催となったボッチャ競技においては全国障害者スポーツ大会における第1歩であったと感じています。選手・役員は全国からの多くの参加者と交流し、地域におけるスポーツの実情などに意見を交わしました。スポーツを通じて世界が広がり、交流が生まれ川崎の選手たちも他県の選手たちとのLINE交換など楽しくつながりづくりを行っていました。

選手たちは川崎市を代表して全国障害者スポーツ大会に出場したという誇りを手にし、大会新記録やメダルなど多くの喜びと今後に向けた更なる大きな目標を持って帰郷しました。大会の意義とスポーツの魅力を改めて実感した大会でした。

栃木では多くのおもてなしと笑顔に触れることができました。大会成功の裏には皆様の多大なる準備と努力があったことと思います。感謝申し上げます。お疲れ様でした。



## いちご一会とちぎ大会での取り組み

入江 容 (那須ブロック 理学療法士 保健医療学博士)  
国際医療福祉大学病院リハビリテーション室  
栃木県理学療法士会 社会局メディカルサポート部

オリンピック終了後に開催されるパラリンピックのように、毎年、国民体育大会終了後に開催されている歴史ある大会での栃木県理学療法士会の取り組みを報告します。

栃木県理学療法士会は大会を通して各競技会場にコンディショニングルームを設置してパラアスリートを「おもてなし」という栃木県からの委託を受け作業療法士会、柔道整復師会、鍼灸師会の他団体や国際医療福祉大学理学療法学科と連携して各競技会場にコンディショニングルームを設置した。コロナ禍での大会ということで、まず第1に来場する選手たちの安全、安心、快適な空間を提供し、コンディショニングを整えてもらうことを考えた。ベッド毎の距離や仕切り、手指消毒や手袋、マスクの着用、会場内の消毒や選手たちの動線など徹底して感染予防に努め、選手たちのコンディショニングに従事することができた。

理学療法士会では5競技（陸上、ボッチャ、車いすバスケットボール、ソフトボール、フットベースボール）のコンディショニングルーム運営を担当し、理学療法士28名（大学教員9名含む）、学生トレーナー35名、3日間延べ116名の体制をとる事が出来た。これは現職者だけではとてもマンパワーを確保する事ができず、パラスポーツに興味を持つ学生トレーナーの活躍が大きく貢献してくれたと実感している。

コンディショニングに従事した我々にとっても今大会はプレーヤーファーストを念頭に置いて普段では経験できないことをさせていただいた。今回参加した従事者の82%がパラスポーツに関わった経験がないと答えており、60%がコンディション対応未経験者だった。ただ、84%もの従事者がパラスポーツに興味を持っており、未経験者でも我々が選手達に均一にコンディショニングを提供すべく現職者も学生も一緒に研修会を重ねた。コロナ禍の大会となる今大会当日、大きな不安を抱きながらも万全の体制で各競技場にて375名ものパラアスリートのコンディショニングに従事することが出来た。大会を通して90%以上の従事者がパラスポーツに興味を持ったと回答し、94%もの従事者が大会に参加してよかったと回答してくれた。大会成功へ導いたものは、従事する全てのスタッフの思いからなるものと感じられた。来場していただいた選手達からは好評の声をいただき、繰り返し利用していただいたり、試合終了後、記念メダルを持って結果報告に足を運んでいただいたり、そういう姿を見ると選手たちにとって安全で安心、快適な空間を提供できたと感じている。

今回の大会参加を通して、これだけの従事者がパラスポーツに興味を示し、これだけのパラアスリートがコンディショニングルームを利用してくれた。パラアスリートから必要とされることを我々が担う事ができるという事が十分に感じ取れた大会でもあった。今後我々栃木県理学療法士会としてパラアスリートと関係を深めることでよりパラスポーツへの理解と発展の一翼を担う事ができる可能性を感じるとともに、繋げていくことがいちご一会とちぎ大会としてのレガシーであると感じている。



# いちご一会とちぎ大会 オープン競技 車椅子ダンス 報告

高根澤 利夫 (全日本車椅子ダンス協会理事長)

高根澤 雅子 (同実行委員長 下都賀ブロック)

2022.10.30 (日) 栃木市西方町総合文化体育館にて、135名の参加をいただき開催しました。企画の段階でコロナ感染症の影響ですべての機能が自粛状態不穏の時でした。大会本部と相談し、規模は可能な範囲、参加者は近県関係者のみ無観客としました。競技は、車椅子に乗って踊るウィルチェア・ドライバーと立ち役の健常者、スタンディング・パートナーとがペアを組んで社交ダンスを披露しました。ワルツ、タンゴなど8種目の個人競技種目、団体競技種目、特別参加種目の3部門です。個人成績は、種目別に採点され、それぞれに順位がつき、39組57名が参加しました。尚審判委員長の判断で順位は非公開としました。団体は3チームで競われ延べ31組64名、それぞれフロアーいっぱいの踊りでした。真剣な顔、困惑の顔、踊り終わっての満面の笑顔…まさしく“ブラボー!!”。順位をつけ難いところですが、僅差をもって順位を決め、全員が栄あるメダル授受者となりました。特別参加種目は、13チーム59組117名が参加、内容は多彩でフォーメーションスタイルでした。多くの方々に参加できることに努めました。健常者のソーシャルダンスとのコラボレーションやラインダンス形式など新しいスタイルの工夫を披露しました。



最後になりますが、大会参加を推挙くださいました栃木県障害者スポーツ協会様には、意義深い機会を与えていただいたこと、更に大会当日ご臨席を賜り競技者を見守っていただきありがとうございます。栃木県、栃木市の大会局様には多大なご指導ご配慮を賜りました。日本パラダンススポーツ協会様はじめ多くの参加協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

## ▶各競技別部会より

### 卓球バレー競技部会 (部会長) 川田 博文 (上都賀ブロック)

新型コロナウイルス感染症が感染拡大している中、開催の中止も考えられる状況でしたが、開催当日、会場となるわかさアリーナの受付には、早朝から熱気が立ち込めていました。

会場内は整然と整備されており、県内外から参加した17チームが、各コートに分かれ試合が開始されました。午前中は予選リーグを行い、午後から決勝トーナメントが行われました。白熱した試合が続き、表彰式へ。

特に県外チームには、戦いの中に見える、技術の高さ、ブロック、アタックの凄さを見せていただきました。今後は本県においても、技術アップ、そして競技の裾野を広げ、全国レベルまでに引き上げたいと思いました。大会を終えて、他チームの競技者や大会役員と再会を誓い、会場を後にしました。



### 車いすバスケットボール (部会長) 阿久津 瑞季 (宇河ブロック)

私は車いすバスケットボールチームのトレーナーとして帯同させていただいた。

普段、県内の車いすバスケットボールチームの方でもトレーナーとして所属しているため、選手たちとは関りがあったが、全スポにおいて試合はもちろんの事、長期間の集団生活の中でも感染症対策に気を使いながら、選手たちのサポートをする事は、初めての経験であったため、とても勉強になったし、貴重な経験となった。試合自体は、一回戦で負けてしまったが、会場全体が栃木県

を応援してくれていた声援や光景は、今でも忘れられない思い出となっている。結果にとらわれすぎず、大会自体を選手たちが楽しんでいる姿を見る事ができ、サポートしている側としては非常にやりがいを感じる事ができた。また他県の方々との交流や情報交換をする機会もあった。全スポが終わった後も、交流は続いている。競技や障害関係なく、県を超えて、多くの人たちとつながることができたのは、全スポの醍醐味でもあると思うし、それを実感することができた。今回の経験を得て、今後も障がい者スポーツに関わっていきたいと思え、地域の活動にも、もっと積極的に参加していきたいと思えた。また機会があれば全スポの帯同も継続して行っていきたいと考える。



## 陸上競技部会（部会長） 服部 隆志（芳賀ブロック）

私は、栃木県選手団の陸上競技監督として、大会に参加しましたが、今回の大会で県勢が獲得したメダルは、過去最多の144個に上り、金メダルは62個となりました。陸上競技はそのほぼ半数の30個の金メダルを獲得しました。

この素晴らしい成績を裏で支えた陸上競技の強化練習会の運営に関わったスタッフについて、もうひとつのいちご一会栃木大会として、感謝の気持ちを込めて紹介します。



令和2年度に今回の大会に向けた栃木県強化指定選手競技力向上事業が県により設けられました。私が代表を務めるリスランニングチームに競技力の高い選手が所属していたことや、宇都宮青葉高等学園陸上競技部の顧問でもあったことから、栃木県障害者スポーツ協会からこの事業の陸上競技の部の運営について依頼がありました。

その事業の事務作業量は膨大で一人で遂行していくことは難しく、リスランニングチームスタッフの下藤さんを頼りました。下藤さんは、毎回の強化練習会と大会遠征の際の選手や指導者への旅費等の準備というたいへんな業務をこなしてくださいました。

また、強化練習会での指導等も私一人では不可能であり、障がい者スポーツに関わる教職員や陸上競技指導者の人脈から、車いす競技は長島さん、投てき競技は涌井さん、手話通訳は中田さん、救護は高木さん、全般的な補助として岩畑さん、平井さんに協力をお願いしました。それぞれの方が今回の大会に向けて他の競技種目に携わっていて多忙を極めていた中で、きめ細やかに陸上競技の選手を支援し強化に尽力してくださいました。

選手が活躍できる環境を作るには、組織づくりが必要です。今回の大会はホスト県という勢いで乗り越えましたが、パラ陸上競技を栃木県に浸透させるため、多くの方々と協力し合い、安定した組織づくりに取り組んでいきたいと思います。

## 卓球競技部会 成田 京子（宇河ブロック）

「いちご一会とちぎ大会」が予定通りに開催され、無事終了したことは感無量です。

私は、栃木県卓球連盟の競技役員として大会に参加しましたが、4年ぶりの開催で、事前の視察も出来ず大会の競技運営に臨みました。今大会では新たに新型コロナウイルス対策の準備もあり、不安と緊張で一杯でした。全国から来県される選手の方達が、ベストコンディションで最高のパフォーマンスが出せる様に万全を期して準備をしました。

卓球競技は、一般卓球とSTT(サウンドテーブルテニス)の二種目があります。前者は、ボールのスピードと回転力でポイントを争います。後者は、ボールの中に入っている鉄球の音を頼りに台の上の転がって来るボールでラリーをします。

一般卓球で工夫したことは、選手が選球したボールを入れる袋です。入れ易い様に切り込みを入れたり、対戦相手との区別が付く様に色分けをしたり、細かな点にも工夫しました。STTは、ルールが異なり戸惑うこともありましたが、選手の皆さんには積極的に声掛を心掛け、困っていることがないように気配りをしました。

大会は、ほぼ無観客でしたが、コートでは白熱したプレーが見られ熱気溢れる声が聞こえて来ました。ファインプレーに、思わず拍手しました。

この大会を通して感動したことは、メダル獲得の有無にかかわらず、障害の壁を乗り越えて仲間と一緒にスポーツを心底楽しんでいる姿でした。“スポーツのもつ力”を感じました。

この大会は、大会に携わった方達の誰一人欠けても成り立たなかったと思います。まさしく、“一丸となって”の言葉通りの大会でした。

大会を通して得たものはとても多く出会った方々、共に過した時間全てが“宝もの”になりました。

何よりも、選手の皆様からは“感動”をいただきました。今、振り返ってみて、皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

## 水泳競技部会（部会長） 澁谷 貢一（宇河ブロック）

我が栃木県において初めての全国障害者スポーツ大会が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大の中、昨年度より強化練習会を幾度と重ねて参りましたが、感染を危惧しモチベーションを維持する厳しさ、又は障がいに罹った原因がウイルスによる選手、進行中の疾患を患っている選手、皆不安を抱いて練習が出来ない、それに加えて練習場所（プール）の確保やその移動に支障をきたす問題が発生しました。



それでも“泳ぎたい”“練習がしたい”そんな選手ばかりでした、仕事帰りに民間のスポーツクラブに通う選手、又は行政機関のプールに向かい黙々と泳ぎ泳力をつける選手たち、水泳競技では陸上での筋トレだけでは足りず直接水に入水してプル・キックのリズム、呼吸法を繰り返し練習する必要がある、場所の確保が最大の課題でした。全体での練習は数回でしたが、全体練習でしか出来ないスタート（飛込み）の練習に時間を費やし、県選手団初めてのリレー引継ぎ練習等今後の自信に繋がる良い経験が出来たと思います。

結果、金メダル13個、銀メダル5個、銅メダル7個を獲得、何より、泳法違反ゼロ、スタートでの失敗（フライング等）ゼロ、全員が胸を張って誇れる大会でした。

本来、メダルの獲得を目標に練習することは大切なこと、しかし、全スポ大会基準要綱にも掲げられている通り、トップアスリートの大会ではないのです、私は、本来のスポーツの楽しさを体験し同じチームの選手を皆で応援し称え合う、又、他県の選手との交流を深め互いに影響し合い、異なる価値観や能力を活かしあうことでイノベーションを生み出し、価値の創造につなげることが出来る、それこそがこの大会の根幹だと考えます。

結びに、今大会を通し選手・関係役員・並びにボランティアの方々と同じ目標や時間、そしてその瞬間を共有することが出来、多くの感動をもらえたことに感謝しこの大会を様々な視点から多くの方に伝え、ご理解いただきたいと思います。

## アーチェリー競技部会（部会長） 田名網 崇（安足ブロック）

地元開催となったいちご一会大会。ふり返ればこの2～3年は全スポに向けて強化練習会を増やしたり、県外遠征に積極的に出かけたりして本大会に向けて協会全体で取り組んできました。普段の練習は体育館でしたが、新たに屋外でできる練習場を確保し、脚や畳などを用意してきました。



大会のあらゆる場面を想定し、風の中や小雨の中でさえも練習し本番でのベストパフォーマンスができるように準備してきました。地元開催ということもあり、5名の選手が出場することができました。今年の大会は、各部門にパラリンピック強化選手などが多数出場し新記録を多数樹立しました。そんな中、栃木県選手団は、出場選手全員が3位までに入賞し、メダルを獲得することができました。選手は、練習の時から緊張する人もいれば、決意をもって望んでいる人もいました。強豪選手がいる中で、メダルが獲得できたのは、寝食を共にし、試合のサポートして下さった介助員の皆さんのお陰だと思えます。選手の1射毎に一喜一憂をし、喜び、励まし合いながら大会を乗り切ったからこそ結果に繋がったのだと思えます。

私は監督として選手団に関わらせていただきました。しかし、女性選手がいる場合、女性の介助員（サポート員）が必ず必要であるということを実感しました。生活面からサポートし、大会でも女性ならではの視点から試合のサポートしなければならぬことを目の当たりにしました。これからの身障者スポーツには、身障者の選手はもちろんですが、健常者の女性スタッフの育成や勧誘も必要だと強く感じました。地元開催での全障大会の盛り上がりの機運を消すことなく、新たなステージを見据えて活動したり、まだ眠っているであろう新しい選手を発掘したりできればいいと思います。我々の協会も、支えてくださっている多くの人たちに感謝をしつつ、地盤をしっかり固め、これからも活動していきたいと思えます。

## フライングディスク部会（部会長） 櫻井 康生（芳賀ブロック）

「いちご一会とちぎ大会」フライングディスク競技は、栃木市総合運動公園で開催されました。本県での開催、さらにコロナ禍による4年ぶりの大会開催となり、まさに『夢を感動に、感動を未来へ』のスローガンのとおり、選手・役員全員が大きな感動とそれぞれの宝物を得たことと思います。

まずは、大会期間中、選手・介助員の皆さんが事故や怪我もなく無事に大会を終えることができたことに対し、お礼を申し上げます。協力体制のとれた素晴らしいチームでした。

また、県障害者フライングディスク協会の皆さんには、県大会以上の運営経験を積んだ人材が少ない中、大会までに指導者養成講座を開催しながら会員の増加を図り、当日を迎えました。大会に至るまでの準備と当日の運営に対しても深く感謝をいたします。

今回、監督という立場で参加させていただき、選手には「感謝」「考えて行動」「笑顔」、この3つのキーワードを胸にみんなで頑張ろうと、話をさせていただきました。チームとしての全体ミーティングは滞在中の夕食時だけ、あとは班長と連絡員の気密な連携と介助員の機敏な行動で、スムーズに大会期間を過ごすことができました。そのおかげで、栃木県の各選手は堂々と自分の実力を出しきり、競技を終えるごとに選手と担当介助員が笑顔で揃って成績の報告に来てくれました。その時の選手の笑顔の中には、達成感と次への挑戦への眼差しを見ることができました。チームとちぎ、「ナイス スロー！」でした。



## ボッチャ競技部会（部会長） 川村 博行（下都賀ブロック）

4年ぶりに那須塩原市で「全国障害者スポーツ大会」が開催され、競技に臨む選手の想いは強かったことでしょう。前日の公式練習では、和やかな表情で会場入りした選手団も各コートでは真剣な眼差しで練習していました。

大会は準備日を含め4日間、連日好天に恵まれました。試合2日目は秋篠宮皇嗣同妃両殿下にご来臨を賜り、会場の空気が高揚感に包まれました。

昨年からは正式種目となったボッチャ競技ですが「とちぎ大会」が第1回目の大会になりました。5月のリハーサル大会での課題から、県大会局や県ボッチャ協会等各組織間の大会運営の調整、マネジメントに苦慮されたことと思います。

ボッチャ競技部会は1年前より審判講習会やリハーサル大会そして本大会前日まで、ホスピタリティーな運営・信頼される審判ジャッジ等、全国からの選手たちを迎えるに当たり、練習を重ねてきました。その間、仲間意識が強くなり、より良い「とちぎ大会」を目指す一体感が生まれました。この経験を今後の活動に生かしていきたいを思います。

今大会は選手団を一同に受け入れられる会場ではありませんでしたが、コロナ感染対策も含め大会が出来る事を他県の視察団に示せ、また次回の大会にも繋がったと思われます。

閉会式後には大会関係者・選手団ともに名残惜しそうに写真を撮ったり、メダルを胸にした選手から「嬉しい」「ありがとう」などの声が聞こえ、たくさん笑顔が見られました。

「とちぎ大会」後もレガシーを継続して共に生きる社会を目指しましょう。

「ボッチャ競技」に関わられた全ての皆様、大変お疲れさまでした。



## グランドソフトボール競技部会（部会長） 俵谷 光俊（那須ブロック）

今大会では、グランドソフトボールのコーチャーとして初めて全国障害者スポーツ大会に参加させて頂きました。4泊5日と長い期間を選手の皆さんと過ごし交流を持てた事、宿泊施設では他県の選手の方と話しもしたりして、スポーツ指導員として大変勉強になりました。この経験はこの先いつまでも忘れる事はないでしょう。

さて、試合の方は残念な結果に終わってしまいましたが、選手の皆は初の全国大会で、他県との実力差を感じ、今より強くなる為にはどうしたらいいか自主的に話し合い、行動するようになり、大会前とは別のチームかのように練習に取り組むようになりました。合言葉は「鹿児島に行こう」です。今大会で得た経験は選手の意識を確実に変えさせ、そんな皆の姿を見ていると自分にできる事は何でもやろうと自分自身の意識も変わりました。

大会を終えて今思う事は、スポーツの持つ力は周りを巻き込み社会全体が良い方向に向かって行けると実感しました。今回はグランドソフトボール競技での参加でしたが、障害者スポーツに携わる1人として今後は他の競技にも目を向け自身のレベルアップにつなげていけたらと思います。

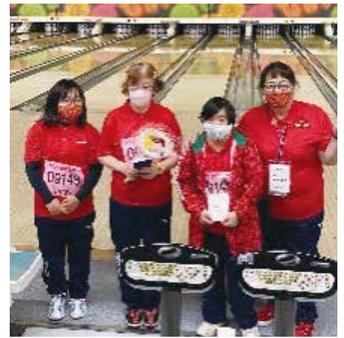
最後に大会関係者、ボランティアの皆さんに感謝を込めて、本当にありがとうございました。

## ボウリング競技部会（部会長） 狭間 芳美（芳賀ブロック）

「いちご一会とちぎ大会」に向けたボウリング選手発掘のため、令和2年度からボウリング体験会を開催しました。体験会の参加者の中から2名の選手が本大会に出場することができ、有意義なものとなりました。

また、令和元年度から栃木県強化指定選手制度がスタートしましたが、私は選手の育成・強化を担当しました。特に大会直前の二ヶ月間は、毎週2～3回のハードな練習を行いました。任命された選手9人は、コロナ禍の中、積極的に参加してくれました。さらに、昨年は大会での集団行動を想定した合宿を桐生で行いましたが、選手のスコアアップや取組意欲の向上につながり、大変有意義な二日間となりました。ご協力いただいた桐生スターレーンや群馬県障害者スポーツ協会のボウリングの監督さん、ありがとうございました。

本大会では、「ボウリングチーム」は選手9名、役員（介助員）7名、監督（私）で過去最多の総勢17名で挑みました。ボウリングは、各ボックスの総当たり戦であったため、最後のフレームの1ピンまで白熱する戦いとなりましたが、結果としては、女子2名が金・銅メダルを獲得することができ、選手の頑張りが形になりました。選手の皆さんには、この頑張りを継続していただき、生活の中で自信や楽しさを見つけ、笑顔でいて欲しいと願うとともに、今後も全スポに出場される事を心から願っています。私は、2013年の東京大会から監督をさせていただきましたが、今回は一番プレッシャーがかかった大会でした。本当に最後の最後まで練習を実施し、大会中も選手の皆さんは私のアドバイスを一生懸命トライしてくれました。私は最大限、個々の選手のパフォーマンスを引き出せるよう努力しましたが、それが選手の皆さんに伝わっていたのだと確信し、感謝の気持ちで一杯です。そして、開催にご尽力いただいた全ての方々、応援して下さいました皆様には感謝とお礼の気持ちで一杯です。「いちご一会とちぎ大会」がレガシーとなり、私の次の目標は、ボウリング競技で笑顔になれる教室を創設するために切磋琢磨していけたら…と、動き始めたところです。



## バレーボール競技部会（部会長） 大木 一弘（芳賀ブロック）

2019年に精神障害者代表チームが結成され、今回いちご一会大会を迎えることとなりました。結成した当初は15人いた選手たち。監督はじめコーチ・マネージャーを中心に地道な練習を重ねていきましたが、選手たちの中には残念ながら体調を崩してしまい途中で離脱してしまう方もいました。また、コロナ禍で大会参加はおろか練習もままならない状況の中無事今回の大会を迎えた選手たちも最後まで戦うことができたのは本当に良かったと思っています。

私自身のチームへの関わりですが、私はバレーボールの経験がないため、ボール拾いや練習のアシスタント、練習や試合の記録（写真・ビデオ等）、練習場所への選手の送迎等を行ってきました。また、私は障害者の相談支援専門員として働いており、普段から精神障害の方たちとの関わりも多いということで、選手や家族からの各種相談や、スタッフへのアドバイスなどもさせていただきました。

精神障害の方は特にメンタルの部分でのフォローが大切です。大会までに何度も選手全員との面談を行い普段の練習や大会、合宿などへの不安等の解消に努めてきました。また、練習に来た時や練習中の様子を見て元気がなさそうな選手には積極的に声をかけて話を聞くなどのフォローを行ってきました。スタッフの中には作業療法士の方もおりましたので連携して医療情報や服薬情報などを調べて全スタッフで共有し日々の練習や合宿時に役立てるよう準備をしてきました。

先述の通り私はバレーボールの経験はありませんが、自分が持っているスキルや知識を活かして関わってきました。こういった関わり方もできますので、多くの指導者の皆さんがそれぞれの持ち味を活かして今後も障害者スポーツに積極的に関わっていただければと思います。



## バスケットボール競技部会（部会長） 渡瀬 由葉（宇河ブロック）

2022年10月29日から10月31日まで「いちご一会とちぎ大会」が開催された。

コロナ禍で開催に不安を感じていた選手スタッフも多かったと思うが、最大限の対策の元、開催にご尽力いただいた関係者の皆様にもまず感謝申し上げます。

知的女子バスケットボールチームは、残念ながら3位決定戦で敗れてしまったが、今までの集大成を感じることでできる試合であった。監督、コーチと反復した練習が形になって発揮されており、私が最初に見学した頃とはまるで別チームのようだった。格上のチーム相手に果敢に挑んだ姿は、大変心動かされるものであった。そして最後は全員がコートにたち、プレーをすることができた。これは本当に素晴らしい経験になったのではないだろうか。

私が考える障がい者スポーツの最大の魅力は、得意なことを活かし、不得意なことをみんなでカバーするというチームワークである。女子バスケットボールチームはそれを体現しながら戦っており、彼女たちの良さがあふれる試合となっていたように思う。この大会を機に、スポーツを始め、体を動かすことの楽しさを知った選手たちもいることだろう。負けたときの悔しさ、出来ないことがあったときのもどかしさ、みんなで勝つ喜び、出来ないことが出来るようになる嬉しさ、一つの目標に向かって努力してきた日々を忘れないで欲しい。そして、自分たちがスポーツを楽しむことで、障がい者スポーツの楽しさを栃木県に広めてほしい。この第一歩が栃木県障がい者スポーツのレベルアップに繋がると考えている。

このような貴重な機会に関わらせていただいたことに本当に感謝いたします。そして、選手の皆様はもちろん、選手のレベルアップのために長期間努められてきた監督コーチの皆様にも感謝申し上げます。



## ソフトボール競技部会（部会長） 影山 昌一（下都賀ブロック）

2022年10月31日大会が閉会し翌日から大会前の日常生活に戻りました。

大会が無事に終了しほっとする気持ちと、大会が終わってしまい寂しいと思う気持ちが湧いてきたことを大会が終了し、数カ月経った現在もよく記憶しています。決して声高らかに受け入れた役ではありませんでしたが、現在は大会を通じて多くの方々との出会い、感動を分かち合うことができ、言葉では言い表せない満ち足りた気持ちでいっぱいです。大会までの日々、大会期間中、とても充実した日々を送らせていただきました。部会長、チームトレーナーをさせていただき、本当に感謝しております。

ソフトボール部会の部会長に就任してからは、チームの練習会に参加し練習のサポート、チームのトレーナーとしてウォームアップやトレーニング、ストレッチなど、選手の体調管理のアドバイスさせていただきました。練習会ではひたむきにボールを追いかける選手の姿、全力でダイヤモンドを駆け抜ける選手の姿がとても印象的で、なんとかこのチームで初戦突破したいという気持ちが自然と湧いてきました。

大会では試合終了まで諦めない姿勢を選手一人ひとりが見せてくれましたが、初戦敗退となり悔しい結果となりました。しかし、初の全国大会への参加はこれからのソフトボール部会、栃木県チームの成長の糧となると信じております。部会長として至らない点があり反省もありますが、今後は今回経験した反省を生かし、チームをサポートしていければと思っております。



## サッカー競技部会 松本 徹（下都賀ブロック）

本大会に初出場した栃木県知的障がい者サッカー選抜チームは準優勝という成績をおさめることができました。

コロナ禍の制限がある中で、本チームは学生から社会人まで約20名の選手と指導者スタッフ、ボランティアスタッフにより、練習と対外試合を精力的に実施し、チーム力を強化してきました。特に夏からは関東のチームと対戦するために遠征を実施し、さらに栃木県の高校生チームとの強化試合を行いながら、チーム戦術を何度も確認し、本大会に向け最大限の準備をしてきました。

本大会前はケガをした選手もいましたが、チームトレーナーの治療と綿密な復帰プランのおかげで、選手全員良いコンディションを保つことができました。また、練習では指導者スタッフが選手の長所を把握し、適切な指導や助言、練習相手をしながら選手のモチベーションを保ち続けていたことも良い状態で大会に入ることができた要因でした。このように、チームを運営していくためには、家族の協力と理解、チームスタッフの構成と人数が必要になると実感しました。

また、団体の障がい者スポーツにおいては選手の確保という観点からも社会的参加性と競技性の意義が問われています。競技性に比重が傾けばスポーツ参加者が少なくなる可能性もあり、双方のバランスを確保しながらのチーム運営がとても重要になると感じています。本大会では全国から参加したチームから地域それぞれの特徴を聞くこともできました。地域ごとの課題はあるものの、「誰でもサッカーを望めば、サッカーができる環境を提供したい」という意見があり、共通する認識なのだと思います。今後も誰でもサッカーができる環境を考え続けながら、競技力も向上していけるようにチーム全員でサッカーを楽しみたいと思います。



# 写真グラフ

# いちごいちえ ひとちぎ大会

夢を感動へ。感動を未来へ。



## 下野市社会福祉協議会と連携したスポーツイベント「ボッチャ教室」に参加して

中林 忠男 (下都賀ブロック)



栃木県障害者スポーツ選手等育成・強化のため、ボッチャの普及と競技力の向上を図るとともに会員同士の交流と親睦を深めることを目的とし下野市中心身障害児父母の会主催、栃木県手をつなぐ育成会協力のもと、1月21日(土) 国分寺B & G 海洋センター体育館において「ボッチャ教室」が開催され20名程の参加がありました。

ボッチャ教室の指導者派遣依頼が“栃木県障がい者スポーツ指導者協議会 下都賀ブロック”にあり3名が参加しました。指導者3名は昨年開催された全スポ「いちご一会とちぎ大会」においてボッチャ競技審判員を行ったメンバーで、試合の流れやルールについても丁寧でわかりやすい説明を行うことができ参加者の子どもや父母たちに理解していただき楽しく競技してもらうよう工夫をしました。普段のコートの広さより小さめな6m×10mとし1コート6名のグループで3コートに分かれ どのコートの試合も白熱した試合が行われ 投げたカラーボール(赤・青)がジャックボール(白)に近づくと拍手があり、盛り上がり、みんな時間を忘れ楽しそうでした。また、参加した父母にも競技だけでなく審判も体験してもらい、ボッチャ競技の楽しさを感じて頂きました。全スポからボッチャ審判は行ってないため少し不安でしたが、ボッチャの楽しさを気づかせる大切な一日になってくれればと願いました。参加者の子どもや父母たちの元気で明るい笑顔に力をいただき、無事に終了することができ、本当に参加して良かったと感じました。

## 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会 受講レポート

永島 一顕 (宇河ブロック)

令和4年度の中級障がい者スポーツ指導員養成講習会が、前期(令和4年10月5～9日)、後期(令和5年1月18～22日)延べ10日間にわたって北海道札幌市で開催され、同市をはじめとする道内及び最遠は福岡から、2人のパラリピアンを含む15人が参加しました。

この講習会は、パラスポーツの振興及び障がい者の健康の維持増進に寄与するため、パラスポーツの専門的な知識、技能を身につけた指導者の養成を図ることを目的としたもので、栃木からは自分のみの参加でした。

前期は、初日の「全国障害者スポーツ大会の歴史と目的の意義」で始まり、陸上競技の競技規則、身体の仕組みや各種障がいについての講義を受け、車いすでのスラローム、ボッチャ、水泳では実技を体験。技術的な指導方法だけでなく、競技に親しむための工夫が如何に大切かなどを学びました。

後期は、フライングディスクの競技規則と指導法でスタート。車いすバスケットボール、車いすダンスでは、車いすの操作方法や相手の障がいに合わせての動き方などのアドバイスを受けました。講義では、リスクマネジメント、指導の際の留意点、全スポの実施競技と障害区分などの話に耳を傾け、指導者として身につけておきたい知識習得に努めました。

講習会では、障がい者スポーツの第一線で活動されている方が講義を担当。講師自身が現場で体験したことを聞いたことも意義があったと感じています。また、救急処置法などは普段の生活の中でも役立てられるもので、緊急事態が発生した際に慌てず対処できるような心構えを持ちたいと感じました。

中級指導員は、「地域のパラスポーツ振興において、リーダーとして指導現場で十分な知識や経験に基づいた指導をすることや普及・振興を進める役割を担う」などが求められています。今回の中級講習会で学んだことを今後の障がい者スポーツの活動に生かし、中級指導員としての役割を果たせればと思っています。

一つ残念だったのは、新型コロナ禍のため交流会が開けなかったこと。色々な場で活動されている皆さんが集まっていたので、もっと親交を深め、幅広く情報交換できたならよかったのにとの思いだけは残っています。



障害に応じた動き方などを学んだ車いすダンス



グループワークで行った救急処置法



肢体不自由を体験▶



グループワークのメンバーと

# 令和4年度 各種報告

## ブロック事業報告

ブロック/報告者	実施日	事業名	会場	イベント参加数	指導員参加数
宇河 森川澄子	8/21(土)	サン・アビリティーズ パラスポーツ体験	宇都宮市サン・アビリティーズ	25	4
	10/1(土)	地区わくわく体験教室(小学生パラスポーツ体験)	豊郷地区市民センター	40	3
	11/13(日)	サン・アビリティーズ 卓球バレー教室	宇都宮市サン・アビリティーズ	8	2
	1/14(土)	サン・アビリティーズ ボッチャ教室・ボッチャ大会	宇都宮市サン・アビリティーズ	22	7
	1/29(日)	サン・アビリティーズ 卓球バレー大会	宇都宮市サン・アビリティーズ	12	6
上都賀 荒川榮子	6/19(日)	上都賀ブロック交流会・ボッチャ競技	日光公民館	6	6
	10/25(火)	日光市障がい者の会交流会	大沢体育館	50	4
	11/23(水)	上都賀ブロック交流会・卓球バレー教室	わかくさアリーナ	6	8
	2/5(日)	鹿沼市聴覚障がい者協会ボッチャ交流会	鹿沼市福祉センター	20	2
下都賀 黒川恵里	8/2(火)・3(水)	野木町小中学生ボランティアチャレンジスクール	野木町社協	6・8	1・2
	9/23(金)	下野市障がい児・者交流会	国分寺B&G海洋センター	59	6
	11/17(木)	県障害者スポーツ協会スポーツ教室(栃木市都賀)	都賀南部コミュニティ体育館	25	3
	12/3(土)	県障害者スポーツ協会スポーツ教室(栃木市栃木)	勤労者体育センター	18	2
	1/21(土)	下野市中心身障害児者父母の会ボッチャ教室	国分寺B&G海洋センター	20	3
芳賀 大木一弘	7月	芳賀ブロック総会	益子町民会館	中止	
	毎月第2月曜×12	益子町作業所マインドスポーツ教室	旧山本小体育館	中止	
	毎月第3日曜×10	市貝町スポーツ教室	市貝町保健福祉センター	90	30
	11/4(金)	県障害者スポーツ協会スポーツ教室(益子町)	益子町総合体育館	中止	
	11/10(木)	県障害者スポーツ協会スポーツ教室(芳賀町)	芳賀町第2体育館	9	2
	11/15(火)	県障害者スポーツ協会スポーツ教室(真岡市)	真岡市総合体育館	30	4
	7月	益子、茂木、市貝3町合同スポーツ大会	益子町北体育館	中止	
	9月	益子町友愛作業所スポーツ教室	農業者活動センター	中止	
	10月	市貝町卓球バレー大会	市貝町福祉センター	中止	
11月	市貝町スポレク卓球バレー大会	市貝町福祉センター	中止		
塩谷・南那須 大金雪子	7/16(土)	塩谷・南那須ブロック交流会	喜連川体育館	12	5
	11/29(火)	県障害者スポーツ協会スポーツ教室(さくら市)	喜連川体育館	21	3
那須 君島紀子	6月	那須ブロック総会	大山公民館	中止	
	8/21(日)	市聴覚障害者協会ボッチャ体験&交流会	東那須野公民館	50	2
	8/25(木)	下永田地区社協 卓球バレー教室	下永田公民館	18	2
	11/20(日)	埼玉コミュニティ福祉部ボッチャ体験会	埼玉小学校体育館	25	3
	11/12(土)	県障害者スポーツ協会スポーツ教室(那須町)	那須町スポーツセンター	22	2
	1月・2月	学年行事ボッチャ体験会(2年・6年生)	稲村小学校	中止	
	R4.6~R5.3	エルム福祉会smile&joys スポーツ教室	主に旧蜂巢小体育館	中止	
	2月	那須塩原市中心身障害児(者)父母の会 ボッチャ教室	大山公民館	中止	
安足 郡司原之	8/5(金)	足利市社協 中・高校生ボランティアスクール	身体障害者スポーツセンター	10	1
	8/19(金)	佐野市社協 心身障がい児・者交流事業	市総合福祉センター	42	2
	8/20(土)	足利市社協 赤い羽根小学校親子ボランティアスクール	毛野体育館	12	2
	2/19(日)	ブロック会員交流会	足利市民プラザ	-	11

Dr.大橋のワンポイント（所属：栃木県保健所参与）

（栃木県障がい者スポーツ指導者協議会顧問、パラスポーツ医）



## With コロナ時代 を考える

新型コロナウイルス感染症は、蔓延状態であり、ワクチン接種の推進とともに、日本における免疫獲得も進んでおります。

新型コロナウイルス感染症は、変異株の出現で、様々な病態となりましたが、現在は、感染性はあるものの、症状は軽症である場合が多くなっています。ただし、基礎疾患がある、あるいは高齢の方々では、重症化する可能性があるため、健康観察など保健医療の管理下に置かれている状態です。

ところで、平成 10 年頃までは、インフルエンザに罹ったら（手軽な検査キットはなく、症状：高熱、関節痛等から診断されていた時代）、1 週間の自宅安静と解熱・鎮痛剤の服用で対処し、また家庭内感染を防ぐために、できるだけ自宅内での隔離がなされていましたが、1 人が罹患すると、家族全員がインフルエンザに罹患して療養するという時代でした。しかし、平成 13 年に抗ウイルス薬が登場して、2 日程度での解熱とそれによる療養期間の短縮（解熱後 5 日間後）が出来るようになりました（解熱しても、ウイルスはまだ体内に残るので、すぐに出勤等はせずに 5 日間程度は療養する）。働きバチである、日本人には熱が下がればすぐに仕事という考えがありますが、人に感染させる力が残っている間は自宅安静ですね。このようなインフルエンザの経緯を踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対応も、必要な人に適切な医療が提供できるような体制に変化することになってゆく時期となっています。

### ●適度な換気や加湿を！

今シーズンはインフルエンザの流行が始まっています。家庭でできるインフルエンザ予防対策は、人混みを避け、外出後は手洗いの徹底、マスク着用、バランスのとれた食事と十分な睡眠、そして、換気と適度な加湿（50～60%程度）ですが、どれも新型コロナウイルス感染症予防としても有効です。

皆様も、自らの健康管理（食生活や運動習慣）をしっかりと行い、インフルエンザの予防接種と同様に新型コロナウイルスの予防接種も適時実施し、生活習慣を適正なものにしていきましょう。



「いちご一会とちぎ大会」  
陸上競技会の栃木県テントに掲げた応援旗



「いちご一会とちぎ大会」開会式



キンギョハナダイの群れ  
(2022.7 伊江島の海にて)

## 令和4年度 事業実績報告

期 日	事業内容	会 場
令和4年4月24日(日)	第1回理事会	とちぎ福祉プラザ会議室
5月21日(土)・22日(日)	第18回栃木県障害者スポーツ大会 兼いちご一会とちぎ大会リハーサル大会	栃木県総合運動公園他
5月29日(日)	定期総会	とちぎ福祉プラザ
7月3日(日)	第41回栃木県障害者卓球選手権大会(STT含)	わかくさアリーナ
10月2日(日)	いちご一会とちぎ大会オープン競技「卓球バレー」	わかくさアリーナ
10月29日(土)～31日(月)	第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」	栃木県総合運動公園他
11月6日(日)	第43回関東障害者卓球選手権大会(STT含)	わかくさアリーナ
11月11日(金)	栃木県障害者文化祭（カルフルとちぎ2022）	わかくさアリーナ
11月27日(日)	第2回理事会	とちぎ福祉プラザ会議室
令和5年2月11日(土)	第4回栃木県ポッチャ大会	わかくさアリーナ
2月25日(土)	コントロール・アタック教室	わかくさアリーナ
3月5日(日)	とちぎ障害者スポーツ推進フォーラム兼スキルアップ研修会	わかくさアリーナ
3月18日(土)	第14回栃木県障害者コントロール・アタック大会	わかくさアリーナ

※「わかくさアリーナ」は「とちぎ福祉プラザ障害者スポーツセンター」の愛称です

- ・障害者スポーツ教室（県内5市町6教室）への指導者派遣⇒延べ16名
- ・障害者スポーツ初級指導員養成研修会（わかくさアリーナ）への講師派遣 延べ8名

## 令和5年度 定期総会及び研修会の案内

- 【定期総会】**
- ・日 時 令和5年5月28日（日）10時から12時
  - ・会 場 とちぎ福祉プラザ障害者スポーツセンター 多目的室（2階）
  - ・内 容 令和4年度事業報告及び収支決算報告  
令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）
  - ・その他 終了後に、総会参加者によるブロック別顔合わせを行います。
- 【研修会】**
- ・日 時 令和5年5月28日（日）13時30分から15時30分
  - ・会 場 とちぎ福祉プラザ障害者スポーツセンター アリーナ
  - ・内 容 「創るスポーツ・レクリエーション」（障害のある方ない方共に楽しめる活動）
  - ・講 師 森川 澄子氏

## 事務局からのお知らせ（令和5年1月1日付、会員数は505名）

- 1 令和3年度2月17日に当協議会の櫻井康夫顧問が日本パラスポーツ協会功労賞を受賞しました。
- 2 令和3年度3月27日に当協議会が栃木県障害者スポーツ協会の障害者スポーツ功労賞を受賞しました。
- 3 2代目会長の佐々木俊郎前会長が、12月8日に享年62歳にて永眠されました。生前のご厚誼に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**【事務局】** 会長兼事務局長 郡司 原之

TEL：090-3042-8406 メールアドレス：t.pslc.jimu@gmail.com

※事務局からのお知らせは、『(特非)栃木県障害者スポーツ協会』ホームページ（<http://www.tochi-shinkyō.org/spo.html>）及びFacebookにて随時掲載しています。